

JA全農 とくしま情報

地域の話や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2021
12月号
No.746



大阪市中央卸売市場・大果大阪青果株式会社で徳島県産レンコンをPR

マンスリーレポート 2

- ・「徳島県れんこんの日」セレモニー
- ・「徳島県れんこん産地連携会議」で情報共有
- ・栄養教諭が冬の和食給食オンライン調理講習会
- ・オンライン親子料理教室
- ・とくしまブランドde簡単料理コンテスト2021
- ・JA東とくしまで農機展示会開催
- ・第29回四国三郎牛枝肉研究会
- ・令和3年度第59回徳島県肉牛共励会
- ・徳島・岡山・山口合同枝肉研究会
- ・大阪の小学校でなると金時の食育学習
- ・第3回果樹部会「寒害園地巡回および情報交換会」
- ・和歌山の小学校でなると金時の食育学習
- ・JAあわ市で「JAでんき」研修会
- ・空港利用客にスタチ飲料配布
- ・道頓堀リバーフェスティバル2021

- ・東北地方・北海道での徳島県産スタチ消費拡大の取り組み
- ・「あすたむ秋の収穫祭」イベント出店
- ・「学生さん応援セット」の無償配布
- ・相生小学校でオモト授業

旬の野菜でおうちごはん 11

- ・なると金時タルト

浜ちゃん・ちっちゃんのうまいモノ絵日記 12

- ・その⑬ ～JA全農とくしまの営業マンやセールスマン～

交通安全お知らせ 12

- ・年末年始の交通安全県民運動の実施について

トピックス 13

- ・営農コラム

マンスリーレポート

～大阪市中央卸売市場で販売拡大へPR～

「徳島県れんこんの日」セレモニー

11月8日、徳島県蓮根消費拡大協議会（会長＝長江郁哉県本部長）と当県本部は、大阪市中央卸売市場・大果大阪青果株式会社の野菜売り場において、年末の需要期に向けての徳島県産レンコンの販売促進として恒例の市場セレモニーを実施しました。

「徳島県れんこんの日」の制定からちょうど10年の節目を迎えた今回のセレモニーには、JA関係者、徳島県、当県本部職員が参加し、協議会の長江郁哉会長は「これから年末の最需要期を迎えるにあたり、安全・安心な徳島県産レンコンを1ケースでも多く出荷してまいりますので、関係者のみなさまには引き続きご厚意いただきますようよろしくお願いいたします」とあいさつをおこないました。

JA大津松茂の佐々木伸夫組合長（同協議会副会長兼販売部長）は産地を代表して「近年は、毎年のように異常気象に見舞われ厳しい生産環境ではありますが、産地一丸となり品質に十分注意し、高品質で安定した出荷に取り組んでまいりますので、なお一層のお引き立てをよろしくお願いいたします」と販売の支援・協力を依頼しました。

またこの日は、市場関係者や仲卸業者など約150人に、オリジナルマスクやれんこんチップス、エコバックなどを無料配布し、徳島県産レンコンを大いにPRしました。



「徳島県れんこんの日」セレモニーの関係者



オリジナルマスクやれんこんチップスなどの無料配布を行い県産レンコンをPR

<徳島県れんこんの日(11月8日)>

11月は徳島県産レンコンの出荷量が増えて品質が安定する時期であることと「いい(11)は(8)す=良い蓮」の語呂合わせから、平成24年(2012年)に徳島県蓮根消費拡大協議会が制定した記念日です(一般社団法人日本記念日協会により認定)。



関係者に観ていただいた県産レンコンのYouTube

～徳島県産レンコンの安定供給を～

「徳島県れんこん産地連携会議」で情報共有

11月2日、名西郡石井町の徳島県農林水産総合技術支援センターにおいて、徳島県蓮根消費拡大協議会（会長＝長江郁哉県本部長）主催による「徳島県れんこん産地連携会議」が徳島県、関係市場（オンライン参加）、生産者、JA担当者、当県本部、合わせて39人出席のもと開催されました。

この会議は、近年の県産レンコン生産量の減少により京阪神市場における本県産レンコンの占有率が低下していることを受け、県内産地の生産状況と京阪神市場における販売状況についてそれぞれが情報を共有し、意見を交換することで、有利販売と県内レンコン産地の強化に繋げることを目的としています。会議の冒頭、同協議会の佐々木伸夫副会長兼販売部長（＝JA大津松茂代表理事組合長）は「関係機関とのさらなる連携のもと、本県の強みである高品質なレンコンの安定供給体制を強化したい」とあいさつしました。

会議では県内各産地の生産者から、生産や出荷の現状と課題が報告され、各市場からは販売状況の報告と産地への期待や要望が伝えられ、近年の生産量減少要因となっている腐敗病対策、収量アップに向けた取り組み、市場への安定供給、売り場の確保・拡大に向けた安定出荷体制などについて、双方で活発な意見交換がおこなわれました。

閉会にあたり、同協議会の長江郁哉会長（当県本部長）は「産地の発展に向け、関係機関が一体となって今後も取り組む必要がある。SNSを活用するなど、今後も一層本県産レンコンのPR活動を強化していく」とあいさつし、つくり手・売り手側と買い手側が相互に現状の課題を再認識し、双方が解決に向けて取り組んでいくことを申し合わせて会議は終了しました。

この会議で、現状の課題を再認識し、関係機関で解決に向けて取り組んでいくことを申し合わせました。



会議の様子



あいさつを行う徳島県蓮根消費拡大協議会の長江郁哉会長

～徳島の農家・漁師とつながる～

栄養教諭が冬の和食給食オンライン調理講習会

11月13日、美馬市協町的美馬市地域交流センター（ミライズ）において、大阪府内の学校給食関係者を対象とした「オンライン調理講習会」が開催されました。（主催＝徳島県、共催＝全農徳島県本部、徳島県漁業協同組合連合会、運営＝和食給食応援団）

この講習会は、関西圏の学校給食への徳島県産食材の使用（＝徳島県産食材の消費と販路の拡大）を目的として開催されたもので、2回目となる今回は大阪府北河内地域と徳島県内の栄養教諭・学校栄養職員約70人が参加しました。

徳島県農林水産部もうかるブランド推進課、朝倉美佐副課長より「学校給食での活用により子どもたちに徳島県産食材のファンになっていただきたい」とのあいさつがありました。

受講者は「徳島の自然が生み出す農産物・水産物の魅力」と題した講習会で、JAあわ市管内のブロッコリー生産者の新藤義文氏、JA徳島市管内のしいたけ生産者の坂口太一氏、かんしょ産地のJA里浦指導部営農生活課の坂東尚職員、鳴門わかめ生産者の南谷遊氏からそれぞれの品目の栽培技術や魅力、生産の難しさや楽しさについて説明を受けました。

続く調理実演では「徳島県産秋冬野菜を活かした和食給食献立」と題して徳島市の日本料理店「かま田」店主の鎌田智也氏による主菜・副菜・汁物・デザート計4品が調理されました。

- 主食：なると金時ごはん
- 主菜：鯖の蓮蒸し
- 副菜：ブロッコリー、しいたけ、にんじんの胡麻和え
- 汁物：ブロッコリー、しいたけ、にんじん、わかめの卵とじ

調理する際のポイントを詳しく解説しながらの実演に、受講者からは「汁物にブロッコリーを使ったことがないので、今後は給食でも作ってみたい」とのコメントがありました。

当県本部では、今後も一般消費者に向けた食育や宣伝活動と合わせて、県内外の学校給食関係者に向けた取り組みを拡充していく予定です。



オンラインによる講演を行う関係者



調理実演の様子

～徳島県産食材で親子が調理～

オンライン親子料理教室

11月14日、名西郡石井町の徳島県立農林水産総合技術支援センター（以下、総合センター）をメイン会場とし、JA東とくしまあいさいキッチン、他3カ所のサテライト会場をオンラインで結んだ「オンライン親子料理教室」が開催されました。

この教室は、新型コロナウイルス感染症の影響により、家庭での食事が増えるなか、県民が心豊かな食生活を送るため、親子を対象にした県産食材を活用した料理教室をおこない、食に対する関心や理解を深めてもらおうと、徳島県やJA徳島女性組織協議会、JA徳島中央会、全農徳島県本部などが構成した委員会が主催したものです。

当日は、メイン会場を4カ所のサテライト会場に配信し、新型コロナウイルス感染予防のため、抽選で選ばれた会場各10人、合計50組の親子が参加しました。

参加者は、JA女性部や管理栄養士の渡邊美智子氏から農業や食べ物についての説明を受け、食に興味を覚えたところで、この日のメニュー「阿波尾鶏のから揚げ」「よくばりきんぴら（レンコン、なると金時、ニンジン）」「かきたま汁」「フルーツヨーグルト」を講師の泉マス子先生の実演を見習いながら親子で調理を楽しみました。

当県本部からは、お土産として食用米「あきさかり」、飲料水「ザすだち」、マスキングテープなどを提供しました。参加した小学3年生の男子は「今日のお米はすごくおいしかったので嬉しい」と喜んでいました。

旬の食材を使用したメニューを調理するこの料理教室は、2月と3月にも開催される予定です。



調理方法について説明する泉マス子先生



調理に取り組む親子

「阿波尾鶏のから揚げ」などの料理

マンスリーレポート

～徳島県産ホウレンソウで高校生が簡単朝食づくり～

とくしまブランドde簡単料理コンテスト2021

11月27日、徳島市応神町の四国大学短期大学部にて「とくしまブランドde簡単料理コンテスト2021」（主催＝四国大学短期大学部、協賛＝全農徳島県本部、後援＝徳島県／徳島県教育委員会）の最終審査がおこなわれました。

このコンテストは全国の高校生を対象として、高校生自身が「食べてみたい、作ってみたい」と思えるような、忙しい朝でも簡単に作れるワンプレート朝食レシピを募集したものです。野菜の総使用量が120g以上であることと、徳島県産の食材を使用して栄養バランスがとれていることに加え、指定された徳島県産ブランド食材を使用することがレシピづくりと調理の条件となります。当県本部はこのコンテストに協賛し、毎年の指定食材を提供していますが、6回目となる今回も、指定食材となった「ホウレンソウ」を提供しています。

最終審査当日は、一次審査（書類審査）を通過した高校生7組（9人）が90分で実際に調理をおこない、徳島県産食材の使用量、栄養バランスの均衡、味や見た目などを基準に試食審査がおこなわれた結果、次のとおり受賞者が決定されました。（敬称略）

- ◇最優秀賞
 - ・徳島県立小松島西高等学校 2年 長野果奈
 - 料理のテーマ：朝ごはんで元気になれるお寿司プレート
- ◇優秀賞
 - ・徳島県立小松島西高等学校 3年 新田乃麗
 - 料理のテーマ：ほうれん草のもぐもぐプレート
- ◇審査員特別賞
 - ・徳島県立小松島西高等学校 2年 山本結々
 - 料理のテーマ：ポパイ&オリーブ
- ◇奨励賞
 - ・徳島県立穴吹高等学校 1年 成石智紀
 - 料理のテーマ：ほうれん草を使ったバランスのとれたワンプレート朝ごはん
 - ・徳島県立城南高等学校 1年 チームほーぼん 大島朱夏・桑坂心春・井出優花
 - 料理のテーマ：ほうれん草de“和食映え”!?
 - ・徳島県立城西高等学校 2年 田中里佳
 - 料理のテーマ：手軽に作れる和食
 - ・徳島県立小松島西高等学校 2年 美馬有愛
 - 料理のテーマ：弁当のおかずにも早変わり



調理に取り組む高校生



受賞式の様子



最優秀賞



優秀賞



審査員特別賞

～農作業を応援、農機の展示販売～

JA東とくしまで農機展示会開催

11月20日～21日、JA東とくしま小松島南部支所において「令和3年度JA東とくしま農機実演展示会（農機フェア）」が開催されました。

展示会場は、新型コロナウイルス感染防止の対策がとられ、各種トラクターや田植機、コンバイン、小物農機などが展示販売され、多くのお客様が実際に手にさわることによって機能や特徴を確かめていました。また、展示会場前の圃場では管理機やトラクター、作業機の実演がおこなわれ、試乗した来場者は説明を受け操作性を確認していました。

なお、この農機フェアはJA連携フェアの一環で、他にも購買フェア（11月20日～28日、グリーン中央店・勝浦店）、直営産直フェア（11月20日～23日、あいさい広場）が開催され、多くのお客様が訪れていました。



展示機を確認する来場者



実演圃場で説明を受ける来場者

第29回 四国三郎牛枝肉研究会

11月12日、大阪市中央卸売市場南港市場において第29回四国三郎牛枝肉研究会が開催され、黒毛和種13頭、交雑種16頭、合計29頭が出品されました。

黒毛和種の部の最優秀賞にはJA麻植郡の北谷昌也さん出品の雌牛（父：福之姫、2代祖：平茂勝、3代祖：北国7の8）が選出され、交雑種の部の最優秀賞にはJA麻植郡のノースバレー株式会社の雌牛（父：福増）が選出されました。共に歩留基準値や脂肪交雑に優れ、ロース芯や僧帽筋に厚みのある堂々とした枝肉でした。



最優秀賞（黒毛和種の部）



最優秀賞（交雑種の部）

令和3年度 第59回徳島県肉牛共励会

11月19日、大阪市中央卸売市場南港市場において令和3年度第59回徳島県肉牛共励会が開催され、黒毛和種12頭（雌3頭、去勢9頭）、交雑種23頭（雌8頭、去勢15頭）の合計35頭が上場し、枝肉成績を競いました。

黒毛和種の部の最優秀賞にはJA板野郡の有限会社阿波キャトルが出品した去勢牛（父：芳之国、2代祖：安福久、3代祖：第1花国）が選出されました。枝肉重量575.8kg、ロース芯面積94cm²、バラ厚10.3cm、歩留基準値78.8、BMS No.12と肉質・歩留の両方を兼ね備えていました。

交雑種の部の最優秀賞にはJA麻植郡のノースバレー株式会社が出品した雌牛（父：福増）が選出されました。枝肉重量533.0kg、ロース芯面積67cm²、バラ厚8.7cm、歩留基準値71.1、BMS No.6と雌らしい綺麗なロース芯が際立っていました。

入賞者は以下の通りです。（敬称略）

	黒毛和種の部	交雑種の部
最優秀賞	㈱阿波キャトル	ノースバレー(株)
優秀賞	立田 美千雄	高鍋 健
優良賞	㈱阿波キャトル	㈱ICO



最優秀賞（黒毛和種の部）



最優秀賞（交雑種の部）

徳島・岡山・山口合同枝肉研究会

11月26日、大阪市中央卸売市場南港市場において、「徳島・岡山・山口合同枝肉研究会」が開催されました。

各県から厳選された発育良好な黒毛和種合計35頭（雌5頭 去勢30頭）が出品され、審査の結果、最優秀賞には山口県から出品された牛が選ばれました。

徳島県は入賞を逃したものの、肉の光沢や脂肪の質の良好なものが多数見られ、平均重量514キロ、平均単価2,364円（税抜）と優秀な成績を収めることができました。

マンスリーレポート

～栽培体験を通して食の大切さを伝える～

大阪の小学校でなると金時の食育学習

11月9日、当県本部園芸部は、大果大阪青果株式会社、徳島県関西本部協力のもと、大阪府大阪市の大阪市立岸里小学校において、なると金時「里むすめ」の食育学習を実施しました。

学習会では、園芸部大阪事務所の平嶋優皓職員が、2年生（53人）を対象に、なると金時について収穫の様子や保存方法を動画やクイズを交えて説明しました。教室には大果大阪青果株式会社から提供されたJA里浦の「里むすめ」が展示されており、生徒たちは学校で収穫されたさつまいもとの大きさ、色、形の違いに驚いていました。

その後生徒たちは焼き芋機が設置された屋外へ移動し、徳島県関西本部の妹尾真也主任から、焼き芋の調理方法や加熱方法などの説明を受けました。園芸部大阪事務所の安村友哉職員が「なると金時」の焼き芋を配布すると手にした生徒たちは「美味しそう」「あったかい」と口々に歓声をあげ、おいしそうにいただいていた。

なお、生徒には、徳島県産青果物のリーフレットやエコバック、スタチの小パック、飲料（ザすだち）などもプレゼントされました。



徳島県産青果物のパンフレットなどのプレゼント



なると金時の説明を行う大阪事務所の平嶋優皓職員



なると金時の焼き芋を配布する大阪事務所の安村友哉職員

～産地と情報交換し効果的な果樹生産へ～

第3回果樹部会「寒害園地巡回および情報交換会」

11月11日、徳島県農業技術普及連絡協議会（会長＝長江郁哉県本部長）は、県下3JA（徳島市・東とくしま・アグリあなん）の担当者、徳島県、当県本部など関係者30人出席のもと、第3回果樹部会「寒害園地巡回および情報交換会」を開催しました。

本協議会は、県内果樹の生産振興や関係機関の情報共有、栽培技術向上を目的として、果樹部会を年4回程度開催しています。

午前中関係者は、JA徳島市、JA東とくしま管内の園地巡回をおこない、ハウスすだちや温州みかんの寒害発生園地を視察しました。

午後からは、勝浦郡勝浦町のかんきつテラス徳島（講堂）において情報交換会がおこなわれました。はじめに、当県本部営農開発課の長昭課長より「今一度生産者目線に立って考えることを念頭に、共通認識をもったなかで、きめ細やかな対応ができるよう活発な意見交換をお願いしたい」とあいさつがありました。

続いて、本年1月上旬の寒害発生の気象条件や発生要因、寒害を受けた果樹の管理対策などについて、JA徳島市長谷部秀明技術主管、JA東とくしま十河和男顧問、県立農林水産総合支援センター高度技術支援課山本浩史課長補佐、同センター農産園芸研究課津村哲宏上席研究員、当県本部営農開発課森聡技術主管より説明がおこなわれました。

温州みかんの寒害は前年着果量が多かった樹で多く見られ、枯死・枯枝・衰弱樹の樹勢回復等の処置については、一度に多量の夏肥を施さず分肥をおこなう、枯れ枝は黒点病の伝染源となるので切除し、甚だしい樹は補植をするといった対策が示されました。

また、各JA担当者および県立農林水産総合支援センター、各農業支援センターからは、産地毎の生育状況・病害虫発生情報、収穫数量・収穫見込みなどについて報告があり、活発な情報交換がおこなわれました。



あいさつを行う営農開発課の長昭課長



情報交換会の様子

～徳島県産農産物を紹介し食の大切さを伝える～

和歌山の小学校でなると金時の食育学習

11月12日、当県本部園芸部は、関西広域連合農林水産部の依頼に協力し、和歌山県和歌山市の和歌山市立有功小学校にて、甘藷食育学習を実施しました。

学習会では、園芸部大阪事務所の安村友哉職員が5・6年生（122人）に、徳島県の青果物やなると金時について動画やクイズを交えて説明しました。生徒たちは熱心に耳を傾け、徳島県の産地に大変興味を持ってもらえました。

授業後には、安村職員が美味しい食べ方や栄養面などについて説明をおこない、生徒たちに一本ずつ「なると金時」を配布しました。同校では後日、給食でなると金時のサツマイモご飯を全学年の生徒に食べていただき、また和歌山市立雑賀小学校へもなると金時を提供し給食で食べていただきました。



なると金時のサツマイモご飯給食



クイズを交えて説明する大阪事務所の安村友哉職員



給食の様子

～安価な電気の供給へ～

JAあわ市で「JAでんき」研修会

11月29日、30日の2日間、ジェイエイ徳島燃料サービス株式会社はJAあわ市本店で同JA職員85人出席のもと「JAでんき研修会」を開催しました。

本研修会は、農業生産コストに占めるエネルギーコストの割合が、組合員の農業所得に重要な影響を及ぼすことから、JAでんき（JAグループが取り扱う電気メニュー）を推進し、組合員の営農・生活コストの削減・抑制を図るのが目的です。

はじめに、同JAの吉永博明参事と同社の崎山一誠社長が「1件でも多く安価な電気を供給できるよう、この研修を機に積極的にJAでんきの推進に取り組んでいただきたい」とあいさつをおこないました。

続いて、全農中四国エネルギー事業所の萩原慶介職員が、エネルギー情勢の報告をおこない、スピード感を持ってJAでんきを推進する必要性を説明しました。

また、職員は3グループに分かれ、各々が電気検針票を用いてJAでんきの試算表に入力し、金額のシミュレーションをおこなった後、同社営業課の森圭介課長代理が、推進マニュアルに沿って組合員への説明順序や提案方法などを紹介しました。

現在県下では、12月から一斉推進を始めるJA徳島市を含めて8つのJA管内でJAでんきの推進を展開しています。なかでもいち早く事業を導入したJAアグリあなは供給件数の順位が全国20位となっており、広域JAや県域会社が上位を占めるなか存在感を示しています。

今後、電気の需要は増加の一途をたどるなか、国による段階的な電力システム改革により電気販売の競合会社は年々増加しています。JAグループは組合員のみなさまが日々ご利用されている電気の料金をお安くするために、JAでんきを全国で推進中です。

※詳細は下記までお問い合わせください。

ジェイエイ徳島燃料サービス株式会社 営業課

TEL 088-637-8202



あいさつを行うJAあわ市の吉永博明参事



説明を行うジェイエイ徳島燃料サービスの森圭介課長代理

マンスリーレポート

～「スダチ」でおもてなしin徳島阿波おどり空港～ 空港利用客にスダチ飲料配布

11月1日～3日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会（会長＝長江郁哉県本部長）と当県本部は徳島県の協力のもと、徳島阿波おどり空港において利用客にスダチ飲料（ずすだち）を配布するおもてなしを実施しました。

この取り組みは、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けている「スダチ」の需要喚起と県内外における認知度向上、観光振興を図るのが目的です。

すだち大使をはじめ県や当県本部園芸部職員が徳島阿波おどり空港の到着ロビーで、降機した乗客にずすだちカートカンと観光パンフレットなどを手渡しし、3日間で計27便の乗客へ2,700セットを配布しました。

仕事で東京から徳島阿波おどり空港を利用した男性は「久しぶりにスダチを味わいたいと思います」と喜んでいました。



すだち大使の牛田有紀さんと当県本部などの関係者がスダチ飲料やパンフレットを配布しおもてなし



降機した乗客へスダチ飲料やパンフレットなどを手渡すすだち大使の河野莉奈さん



関係者が到着ロビーで歓迎!!



配布されたスダチ飲料など

～大阪の野外イベントでレンコン・なると金時・スダチをPR～ 道頓堀リバーフェスティバル 2021

11月14日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会（会長＝長江郁哉県本部長）と当県本部および徳島県関西本部は、大阪市浪速区の湊町リバープレイスで開催された「道頓堀リバーフェスティバル2021」（主催＝大阪活性化事業実行委員会）に出展し、徳島県産青果物などのPRをおこないました。

徳島県ブースでは、当県本部園芸部大阪事務所の佐藤広司所長をはじめ平嶋優皓職員、すだち大使の牛田有紀さん、徳島県のマスコットキャラクターすだちくん、大阪天水連の踊り子が来場者に対して、ブース前や特設ステージで徳島県の紹介や阿波踊りを交えて、スダチのPRをおこないました。

その後、当県本部職員はすだち大使、県職員とともに出店外食業者にスダチとマスクの宣伝資材を配布し、レンコン、なると金時、スダチなど徳島県産青果物をPRして回りました。



徳島県ブースでレンコン・なると金時・スダチをPR



特設ステージでPRを行うすだち大使の牛田有紀さん



県産青果物などのPRをおこなった徳島県ブース

～全農各県本部・ホクレンと連携～

東北地方・北海道での徳島県産スダチ消費拡大の取り組み

徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会（会長＝長江郁哉県本部長）は、今般の新型コロナウイルス感染拡大に伴い価格低迷などの影響を受けている徳島県産スダチの消費促進と利用拡大をはかるため、8月～11月の間、東北地方および北海道において消費宣伝活動を展開しました。

東北地方の全農各県本部とホクレン農業協同組合連合会の協力のもと、農産物直売所や飲食店舗において「スダチに関するアンケート調査」や「スダチ（小袋）の配布」、「スダチを利用した限定メニューの提供」などを実施し、各地での一層の需要喚起・認知度向上をはかりました。

スダチを手にしたお客様からは「何にでも合って美味しいです」「東北でも店頭でスダチが日常的に並んでいれば購入したい」「サンマの不漁でスダチの消費が落ちていると聞き、生産者の方は大変だと思います。消費に少しでも貢献したいです」といった声をいただきました。

当県本部では、今後も引き続き県下JA、各協議会、徳島県、阿波ふうど等の関係機関との緊密な連携により、スダチをはじめ徳島県産農産物の積極的な消費宣伝を実施してまいります。



(北海道)「ホクレンくるるの杜」でのアンケート調査&スダチ配布



(北海道)「ホクレンくるるの杜」農村レストランでのビュッフェ提供



(青森県)「アグリショップ青森店」でのアンケート調査&スダチ配布



(岩手県)「純情ショップ」でのアンケート調査&スダチ配布



(岩手県)純情産地いわての店「みのるダイニング」でのメニュー提供



(秋田県)サッカーJ2「ブラウブリッツ秋田」試合会場でのスダチ配布



(山形県)「エコープもとさわ店」でのアンケート調査&スダチ配布



(山形県)JAさくらんぼひがしね「よっけぽぽら」でのメニュー提供



(福島県)JA農産物直売所「愛情館」でのアンケート調査&スダチ配布

マンスリーレポート

～徳島県産青果物をPR～

「あすたむ秋の収穫祭」イベント出店

11月6日と7日の2日間、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会、徳島県農産物消費拡大協議会と当県本部園芸部は、板野郡板野町のあすたむらんど徳島において開催された「あすたむ秋の収穫祭」（主催＝あすたむらんど徳島）にブース出店し、徳島県産青果物の販売と消費宣伝をおこないました。

このイベントは「徳島の魅力を再発見し秋の味覚を楽しもう」という目的で、今年初めて開催されたもので、徳島県のPRトラック「でり・ぱりキッチン阿波ふうど号」での試食配布やNPO法人による収穫体験やサラダ作り、出張とくしまマルシェが実施され、県内の団体が出店しました。

当県本部のブースでは、すだち大使と園芸部職員がスダチやなると金時、レンコン、ブロッコリーなどの青果物を宣伝しながら販売し、2日間とも県内外から訪れた大勢の来場者にお買い求めいただきました。



すだち大使の古川舞佳さんや園芸部職員が徳島県産青果物をPR販売

～徳島県産米あきさかりなど提供～

「学生さん応援セット」の無償配布

11月9日、当県本部米穀総合課は四国大学キャンパス（徳島市応神町）で、とくしま生協が展開する「学生さん応援セット」の無償配布に参加しました。

このプロジェクトは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、仕送りやアルバイトなどの収入減少で生活に困窮している大学生を応援したいという想いから、とくしま生協と四国大学が連携し企画したものです。

とくしま生協が準備したカップ麺などの加工品200セットと徳島県産あきさかり（2kg）200袋を、集まった学生一人ひとりに、生協役職員と米穀総合課職員らが「頑張ってください」と声をかけ配布しました。応援品を受け取った看護学部の子は「一人暮らしなので、とても助かります」と笑顔で話していました。

提供した徳島県産あきさかりは、新米を食べて勉強を頑張っていたきたいという思いを込めて、米穀総合課のパールライスセンターで丁寧に精米された商品で、米穀総合課職員がトラックで事前に配送し大学関係者へ納品しました。



生協役職員や米穀総合課職員などが応援品を配布

～オモト産地の子どもたちが生け方などを体験～

相生小学校でオモト授業

11月16日、とくしまの花振興協会（会長＝坂本雅彦副本部長）とJAアグリあなは、那賀町立相生小学校において、総合学習の一環として「オモト（万年青）」を使った花きの授業をおこないました。

那賀郡那賀町（旧・相生町）は、縁起の良い植物として引越し・長寿のお祝いや正月の花材などに重宝されるオモトの産地で、生産量・品質ともに全国一位を誇ります。このオモトを地元の子どもたちにもっと知ってほしい、触れてほしいという生産者の願いから、授業での取り組みをおこなっており、今年で14回目となっています。

授業は、華道家の兒玉知之氏が講師を務めました。6年生14人の生徒たちは、兒玉氏の指導で生け方を体験しました。生徒たちは楽しそうに思いの作品を作り上げました。



オモトの生け方について兒玉知之氏よりお話を聞く生徒

料理研究家HITOMI先生が薦める、簡単スピーディー、そして楽しんで作れるレシピをご紹介します！



なると金時タルト



▼材料(タルト型15cm)

なると金時……………120g
黒ごま……………大1

A { 薄力粉……………130g
砂糖……………50g
バター……………40g
卵黄……………1個分

B { バター……………30g
砂糖、蜂蜜、生クリーム……各大2

▼作り方



① フードプロセッサーにAを入れて、さらさらのパン粉状にする。



② タルト型に溶かしバターを塗り、①を平らに広げる。



③ なると金時は角切りにし、Aを加えて艶色になるまで煮詰める。

④ ②の上に全体に流し入れ、余熱の入った170度のオーブンで45分程焼いて黒ごまをふる。

POINT

混ぜ過ぎると固い生地になるので注意します。



料理研究家 HITOMI <http://www.hitomi-cook.com>

◎免許：調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー
◎賞：2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴：TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演/ラジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント：大阪ガスハグミュージアムにて鯉を使った爽やか料理講習会/大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習会 ◎カルチャー講師：兵庫イオンカルチャー(姫路、加古川、明石の3店舗)講師/神戸市立長田区勤労センター、神戸市立西市民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など



その139

～JA全農とくしまの営業マンやセールスマン～

◆道具が増えた時代◆

最近、個人や会社や政治家もホームページやブログだけでなく、ツイッターやフェイスブックなどを積極的に活用する時代になりました。毎月発行される「JA全農とくしま情報」は、今、手にとっていらっしゃるの、ご存じだと思いますが、JA全農とくしまも時代の波に乗って、新しい情報発信を始めています。

再々アピールがないと、忘れていくものですね。想いを届けるには、自分の心の中に強い思いがあっても、ただ待っているだけでは伝わらない、誰かが気持ちを察して心をノックしてくれる訳ではないですから、自分達が自らの言葉で情報を発信していくことが、重要ですね。

◆JA全農とくしまYouTubeチャンネル◆

皆さん「JA全農とくしまYouTubeチャンネル」をご覧になられた事はありませんでしょうか。JA全農とくしまが独自で制作するコンテンツです。今年度から開始されたとはいえ、既にたくさんの動画を見ることが出来ます。

◆動画を「どうが」んばるか◆

題材探し、取材・構成・編集のすべてを職員でおこなっていると教えていただいた時には「うわー大変だわ」とつぶやいてしまいましたが、YouTubeで言うチューぶりどと気張って欲しいと思います。私も 就寝前に、新チャンネルの動画みて、しんちゃん寝るまで、やめられなくなりました。

CMのメイキング映像の様に、控え室の映像など裏方の生の姿などもありますし、テロップ文字で流れる、関西文化のボケとツッコミも面白いですね。動画で編集されているので、写真や文字だけよりも情報量が多く、見ていて非常に親しみが持てます。もちろん、イベント内容や、普段は見る事が出来ない農畜産物の現場の様子。おいしく簡単料理の作り方もあり、見ていて楽しいです。



◆情報発信は重要◆

人間って忘れる動物ですね。私も昨晚の夕ご飯のメニューが思い出せません。(苦笑)人は常に目の前で

交通安全のお知らせ

年末年始の交通安全県民運動の実施について

年末年始は、日没時間が早まるとともに、交通量の増加等に伴い、例年交通事故が多く発生しています。そこで、みだしの県民運動が以下のとおり実施されますので皆様方のご協力をよろしく申し上げます。

1 期間

令和3年12月10日(金)から
令和4年 1月10日(月)まで

2 運動の重点

(1) 夕暮れ時と夜間の交通事故防止

夕暮れ時(おおよそ日没30分前)の早めのライト点灯、夜間は前照灯のこまめな切り替えによるハイビームの積極的な活用をお願いします。

歩行者は、明るい服装や反射材用品等を効果的に活用し、車からわかりやすいようにして、夜間の交通事故防止に努めましょう。

(2) 全ての座席におけるシートベルト着用の徹底

車両に乗車する際には、シートベルトを正しく着用するとともに、同乗者(後部座席を含む)にも確実にシートベルトを着用させ、チャイルドシート使用時には、正しい取付けと着用を徹底しましょう。

(3) 飲酒運転等の悪質・危険な運転の根絶

ア 飲酒運転の根絶

飲酒運転は悪質・危険な犯罪です。

新型コロナウイルスの感染率も減少し、年末年始に向けて飲酒の機会が増えると思います。飲酒すれば、公共機関等を利用するなどして、周囲の方々が協力し合って「飲酒運転をしない・させない・許さない」環境作りをお願いします。また、二日酔い運転にならないように十分気をつけましょう。

イ 妨害運転の根絶

令和2年6月30日に妨害運転に対する罰則が創設されました。あおり運転は犯罪です。危険、迷惑なあおり運転をしないようにするのはもちろん、あおり運転を受けたときは、車外に出ることなく110番通報をしてください。またドライブレコーダーをつけましょう。

県民の皆さんが、「ゆずる心と待つゆとり」の気持ちを持って安全運転を心がけることで、運転のしやすい環境を作っていきましょう。

徳島県警察本部 交通企画課



営農コラム

今年の冬も寒さに気をつけて

営農開発課 技術主管 隔山 普宣

11月10日に気象庁から「ラニーニャ現象が発生しているとみられる」と発表されました。今年の冬はラニーニャ現象が続く可能性があるということです。

「ラニーニャ現象」とは、南米・ペルー沖の赤道付近の東太平洋で、海面水温が平年より低くなる現象で、冬にラニーニャ現象が起きると、日本の上空では偏西風が平年より南に蛇行して寒気が流れ込みやすく、気温が平年より低くなる傾向にあります。

気象庁の3か月予報（11月24日発表）では「ラニーニャ現象の影響で東日本以西は寒気の影響を受けやすいため、西日本の気温は低い」となっています。

過去にラニーニャ現象が発生した冬には、厳しい寒さや大雪をもたらしたことがあります。昨年の夏から今年の春にかけてもラニーニャ現象が発生し、冬は一時的に強い寒気が流れ込み、北陸では記録的な大雪となりました。

徳島県も昨年の12月から今年の2月にかけて、厳しい寒さと積雪があり、12月、1月、2月に県より「低温及び降雪に伴う農作物等の管理対策」が発表されています。

低温対策としては、ハウレンソウ、コマツナ等の葉菜類

はべたがけ資材等を利用して凍害を軽減・防止します。また、ユーラックカンキ（換気孔を空けたトンネル用フィルム）等をトンネル被覆して生育促進を図ります。施設野菜は燃油削減も兼ねてハウス側面に保温資材を張る、開口部分の隙間を塞ぐ等ハウスの気密性を高めます。

降雪対策としては、洋ニンジン、レタス等のトンネル栽培では、トンネルのつぶれ防止のため、早めに除雪を行います。加温設備のあるハウスは、ハウス内温度を高め、内張カーテンを開き融雪に努めます。

気象庁のホームページでは、1か月、2週間、1週間先の気温や降雪等の予報を見ることができます。こまめに確認して天気予報で低温や降雪が予報される場合は、低温対策や降雪対策を早めに行いましょう。



園芸部

～花づくしの楽しいイベントが盛りだくさん!～

Tokushima Flower Festival・第39回徳島県花き展示品評会のご案内

令和4年1月22日（土）・23日（日）の2日間、徳島県やとくしまの花振興協会などによる「Tokushima Flower Festival・第39回徳島県花き展示品評会」を開催します。

イオンモール徳島の1階AWAコートで「Tokushima Flower Festival」、4階イオンホールでは「第39回徳島県花き展示品評会」が開催されますので、ご家族やお友達お誘いあわせの上、ご来場ください。

詳細は、本紙裏面チラシを参照願います。

日時：令和4年1月22日（土）・23日（日）
の2日間

場所：イオンモール徳島（徳島市南末広町）

お問合せ先：徳島県もうかるブランド推進課
（電話088-621-2488）



～全農常務理事による職員講話～

令和3年度「職員研修会」

11月12日、徳島県JA会館別館大ホールに、竹本尚史常務理事、伊藤康浩地区担当部長、当県本部および子会社の役員職員102人出席のもと「令和3年度職員研修会」をおこないました。

はじめに、野口栄理事長からの「誓いの日」のメッセージ動画を視聴しました。

続いて長江郁哉県本部長が「11月1日は全農グループの『誓いの日』であり、11月はコンプライアンス取組強化月間です。報告・連絡・相談をおこない日々の業務に取り組んでください」と述べ、令和3年度コンプライアンス推進・リスク管理計画の上期取組み結果などの説明がありました。

竹本尚史常務理事からは、本会の事業内容や自己改革の取組みについての講話や職員からの質問に対する答えを

いただき、本会が取り組むべき方向性や課題について情報の共有をはかりました。

常務は「4大リスクを起こさないよう徹底して取り組んでいただきたい」「ハラスメントのない職場が一番重要と考えますので、円滑なコミュニケーション、風通しの良い職場づくりをし、ハラスメントを発生させないよう徹底していただきたい」と述べられました。



講和を行う竹本尚史常務理事

園芸部

～ラジオで徳島県産レンコンをPR～

JRT四国放送「ラジオ大福」 「となりのラジオ」に生産者が出演

11月8日、徳島県蓮根消費拡大協議会（会長＝長江郁哉県本部長）は、JRT四国放送のラジオ番組「ラジオ大福」「となりのラジオ」で、徳島県産レンコンをPRしました。

JA大津松茂管内のレンコン生産者齋藤茂春氏の圃場にラジオカーが訪れ、吉本興業の芸人、ずばり!タコ介さんによる収穫体験やインタビューがおこなわれました。ずばり!タコ介さんは齋藤さんご夫妻から収穫方法の手ほどきを受け、大きなレンコンを掘ると「採ったぞー」とアピールしたり、徳島県産レンコンが色白な理由などを面白く紹介しました。

その後、ずばり!タコ介さんはレンコンフェアを開催中の

JA大津松茂の直売所「えがお」でJA大津松茂大津支所営農経済部農産物直売所の木村愛職員にレンコンの部位別の調理法などを聞き、リスナーや直売所の来店客にPRしました。



ずばり!タコ介さんとレンコン生産者の齋藤茂春さんご夫妻

企画管理課

JRT四国放送ゴジカル! 「笑味ちゃん通信」でJAあわ市の ミニトマトの魅力発信

11月24日、阿波市市場町の阿波市交流防災拠点アエルワにおいてJRT四国放送テレビゴジカル!「笑味ちゃん通信」の番組収録がおこなわれ、当県本部企画管理課広報室の仁木智美室長が、同JA特産のミニトマトの魅力を発信しました。

テレビでは、森本晴香アナウンサーと仁木室長からミニトマトのプチ情報紹介と同室長の考案レシピ「ミニトマトのアヒージョ」の調理の様子が12月9日(木)の「ゴジカル!」番組内で放映されました。また、クリスマス仕様に盛り付けられた簡単料理(ミニトマトのすだちハニー漬け、ピンチョス)も出演者から好評でした。

<JRT四国放送「ゴジカル!」(毎週月～金、午後4時50分～)>
見逃した方は深夜0時59分～の再放送をご覧ください。
<https://www.jrt.co.jp/tv/gojical/>



JAあわ市特産のミニトマトの魅力を発信!

みんなが トクする JAでんき

JAだから

- 簡単!
- 安心!
- 安い!

JAでんきとは

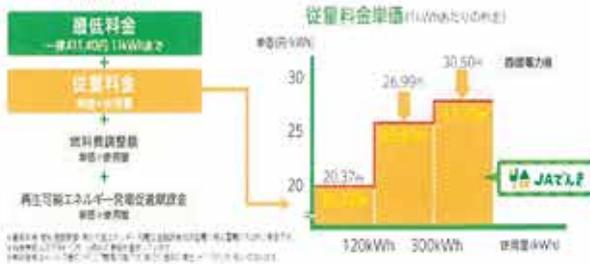
組合員のみなさまが日々ご利用されている電気の料金をお安くするために、JAグループが取り扱う電気です。切り替え簡単、JA口座をそのままご利用できます。

実施中!
おトクキャンペーン
最大 3,000円

JAでんきへの新規お申込みで
3ヶ月間 毎月1,000円(税込)おトク!

料金メニュー (従量電灯Aの場合)

JAでんきの料金体系



切替えによるおトク額 (上記の場合)

	2人家族	4人家族	6人家族
月間使用量	300kWh	400kWh	500kWh
月間電気料金	7,489円	10,539円	13,589円
旧電気料金	7,297円	10,072円	12,847円
JAでんき 年間お得額	2,304円お得!	5,604円お得!	8,904円お得!

組合員の皆さん!
電気代見直しませんか?

JAでんきに切り替えると

< 4人家族の場合 >

約5,600円 もお得に!

- ※1 上記はご希望と契約される一般の料金メニューによる試算です。
- ※2 お得額は大手電力会社の従量メニューとの比較です。
- ※3 使用量・プランによってはお得額が異なります。

詳しくは、JAでんき ホームページまで

JAでんき 検索



1146 228000-4444 (0127-0414)



Tokushima Flower Festival

とくしまお花時間キャンペーン 第2弾



4会場にて 徳島県産のお花を展示

期間 2021 12/17[金] → 12/21[火]

会場 ふらっとKOKUFU

徳島市国府町中369-1

期間 2022 1/13[木] → 1/17[月]

会場 徳島阿波おどり空港

板野郡松茂町豊久朝日野16-2

期間 2022 1/22[土]・23[日]

会場 イオンモール徳島

1階 AWAコート 徳島市南末広町4-1

同時開催

県内No.1の「花」を決めるコンテスト出品品を一堂に展示
第39回 徳島県花き展示品評会

会場 4階 イオンホール とくしまの花振興協会主催

期間 2022 2/11[金] → 2/15[火]

会場 道の駅 貞光ゆうゆう館

美馬郡つるぎ町貞光大須賀11-1



5,000円相当のお花を
20名様にプレゼント!

応募方法 「Instagram」または「チラシ裏面のはがき」から応募できます。

応募締切 2022年2月28日(月) 消印有効
※チラシは展示会場や加盟店等に設置しております。



とくしまフラワーフェスティバル 公式Instagram

徳島県産花きの需要喚起応援事業実施主体/徳島県協力/とくしまの花振興協会



JAタウン「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま YouTubeチャンネル



JA全農とくしま Instagram



JA全農とくしま クックパッド



JA全農とくしま ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋 になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は無料です。送付先の氏名・住所変更や、送付の停止につきましては、JA全農とくしま企画管理課広報室(電話 088-634-2462)までご連絡ください。

